

第2回 学校評議員会議事録

日 時 令和2年10月26日(月) 16:00
場 所 本校小会議室
参加者 評議員 鶴田清司 様
(都留文科大学教養学部教授)
宮 下 美佐江 様 (石原会計事務所・主婦)
栗 井 晶 子 様
(公益財団法人栗井英朗環境財団法人代表理事)
勝 俣 光 司 様 (富士吉田市立下吉田中学校長)

職 員 校長(古屋) 事務長(高山) 第一教頭(廣瀬)
第二教頭(谷内) 総務部主任(記録係:渡邊邦)

次 第

- 1 校長挨拶
- 2 自己紹介
- 3 生徒との懇談
- 4 学校教職員との意見交換
- 5 連絡事項

- 1 校長挨拶 (前回の会議以降の学校の様子)
 - ・3年生252名の大学入試共通試験出願 指定校推薦を受験する生徒が増えた。
 - ・2年生の修学旅行は2月に延期 1年生文理選択 2クラス文系3クラス理系希望
 - ・8月の吉高オープンキャンパス参加生徒409名 20校の中学から参加(甲府の学校含む)
 - ・吉田高校入学希望倍率
普通科1、26倍、理数科1、23倍 全体1、25倍
前期入試・・・普通科2、05倍、理数科1倍
 - ・学校評価アンケートより・・・文武両道満足度、地域との交流、ボランティア活動満足度が7割を超えていない
 - ・学校全体の課題・・・ICT活用に伴う環境を作っていくこと
教員の授業観察の中で ICT を使っているか評価項目に入れる、研修を取り入れる
- 2 自己紹介 5名より自己紹介
生徒会長(羽田)、生徒会副会長(佐藤)、3年普通科(諏訪田)、
2年理数科(中村)、1年普通科(舟久保)
- 3 生徒との懇談(評議員からの質問に答える形実施)
質問①入学時に思い描いていた学校生活と今の生活とのギャップ、中学時代にやっておけばよかったこと
(羽田さん)
質の高い文武両道は入学時と今と変わらない。学習だけ頑張っているイメー

ジがあるが、学習だけではなく、文武両道しっかりできている。

中学の時から努力し続ける姿勢を持つことが大切。

(諏訪田さん)

受験は団体戦、仲間とサポートし合って乗り越えることが大事

(中村さん)

吉田高校は、自分のやりたいことをしっかりサポートしてくれる

(舟久保くん)

中学と比べて時間が足りなくなる、時間のやりくりができたようになった。

中学校時代は無駄な時間が多かったと感じる。

(佐藤さん)

吉田高校は勉強中心だと思っていたが、総合的な学習の時間で地域の課題を見つけ発表する探究発表活動を行っていることに感銘した。

質問②吉田高校に入学して良かったこと

(羽田さん)

中学時代と比べて意見の質が違ふと感じた。

富士山学という探究の授業で地域の人々との関わりを多く持てる。

(諏訪田さん)

何事にも熱く取り組むことに対して同じ姿勢を持っている生徒が多い。

富士山学での探究活動を通して自分の意見を組み立てられるようになったこと。

富士山学ではディベートがあり、他者の立場から物事を考えられるようになった。

(中村さん)

あらゆることに関してやりたい事ができる環境が整っている。

生徒同士で応援し合える環境。両立が大変でも、周囲が応援してくれる。

(舟久保くん)

習熟度クラスでの授業、小テストや課題がある環境

(佐藤さん)

将来について、自分についてよく考えるようになった。

勉強を一生懸命頑張ることに対して温度差がなく、同じ目標を持っている生徒が多い。

質問③コロナでできなくなったこと、将来地元に戻ってくることにについて

(羽田さん)

昼食の時間に制限があること、地元に戻ってくることにについては半々の気持ち

(諏訪田さん)

3月から5月まで休校だったことが受験生として不安だった。周りが頑張っている姿が見えず、自分の頑張りと比べることができなかった。

将来は富士吉田市役所で働きたい。NPO 法人かえる社の活動を経験して地元に戻って来たいと考えるようになった。地元を盛り上げていくことに貢献したい。

(中村さん)

安全志向で周囲が進路希望を変えるという話を聞いて不安はあったが、希望進路は変わらずにいる。この地域が好きなので、将来は地元に戻って来て繊維

の仕事に携わりたい。

(舟久保くん)

コロナの影響で、今後の進路には敏感になった。地元に戻ってくるかどうかはまだ迷っている。山梨から離れることに少し罪悪感を持っている

(佐藤さん)

学校行事など縮小して行わなければならなかったことが残念。就職については、将来帰って来たいと思える場所をこれから作りたい。

- ④羽田生徒会長から、今期の自信が目指す生徒活動目標、抱負について資料をもとに説明（生徒が主体性を持って学校生活を送るという目標とそれに向けてどのようなことをしているか）

羽田会長の説明を受けて

(栗井様より)

ICT化が進むことについてどのような形になっていくのか？

紙に触れることがなくなることについて、バランスを考えて残すものは残していくことが大事なのでは？

(鶴田様より)

情報として活用するためにはICTが必要だが、本を情報として読むのではなく、思考を深めるために読むには紙の書籍が必要では？

全体を受けて、鶴田様よりディベート行うことのメリットについて、参加生徒に説明をしていただきました。

ここで、所定の時間になり、生徒との懇談を終了、生徒は退室。

4 学校教職員との意見交換

(栗井様より)

勉強と部活の両立についてとてもよく考えていて素晴らしい。

目標をどのように成し遂げるべきか、支え合って頑張っている。

富士山学という生徒に様々な力を身に付けるための機会を作っている。

(鶴田様より)

大学が求める学生像に合致している生徒が多いことに感銘した。

高大連携するにはとてもいい学校だと感じる。

(宮下様より)

文武両道ができる環境があることについては、他からも聞いている。

(勝俣様より)

高校生からの意見を中学生に伝えたい。

地域との交流は中高で取り組み、さらに活性化させていきたい。

勝俣様より SDGs の取り組みとはどのようなものか質問

→教科横断型の活動で、世界の問題に対して考え、意見を表現する機会を作っている。

(栗井様より)

ICT や SDGs の活動で力になれることがあれば協力していきたい。

(谷内より) 総合的な学習を含めて小中学校でやってきたことを高校側の理解しておくことが大切であると思っている。

5 連絡事項

次回は3月12日(金)15:00～

内容 ①学校評価について ②来年度の予定について